

# 平成28年度第2回総合教育会議録

平成28年11月10日

## 平成28年度第2回総合教育会議録

日 時：平成28年11月10日（木） 15時00分から17時00分まで

場 所：筑後市役所東庁舎2階 第1委員会室

議 事：「教育のまち・ちっこ」の実現に向けて

- ① 基本方針3 「社会を生きぬく力を育む学校教育の推進」について
- ② 基本方針4 「生きがいを感じる生涯学習の推進」について
- ③ 基本方針5 「スポーツを通じた健康なまちづくりの推進」について

決定事項：①基本方針3「社会を生きぬく力を育む学校教育の推進」について

1. 小学校の校内放送を、英語と日本語両方で放送する方法を検討すること。
2. スポコン広場などの学校行事に係る移動手段等について予算組み及び方法を検討すること。

②基本方針4「生きがいを感じる生涯学習の推進」について

1. 中学生の職場訓練や小学生の施設訪問の受け入れ先として、筑後市内の企業や施設の選択肢を広げられるよう検討すること。

③基本方針5「スポーツを通じた健康なまちづくりの推進」について

1. 小学生を対象とした「福岡ソフトバンクホークス観戦の日」の実現に向けて方法等を検討すること。
2. ラジオ体操については、2月18日の市民向けの講習会に各学校の校長先生と教頭先生に出席していただけるように要請すること。
3. 八女高校と八女工業高校の野球部定期戦をタマスタ筑後で開催することについては、検討すること。

## [議事録]

### 橋本部長

皆さんこんにちは。開会に先立ち、本日の会議に現時点で傍聴人も報道陣もいないことを報告する。

それでは、定刻になったので只今より平成28年度の第2回筑後市総合教育会議を開会する。本日の会議には議題の関係もあり、ホークスファーム連携推進室長も同席しているので、紹介する。

(江崎室長一言挨拶)

それでは、手元の次第に沿って会議を進めさせていただく。まずは中村市長からご挨拶をいただく。

### 中村市長

皆さんこんにちは。前回8月に続いて第2回目の総合教育会議ということで、お忙しい中お集まりいただき、また日頃より筑後市の教育行政のため、いろんな知恵を貸していただき、心から感謝を申し上げます。

先月10月中旬には第29回のちっごスポーツフェスティバルを開催し、市内各所で子どもから大人まで、いろんなスポーツに取り組む姿が見受けられた。また、子ども会陸上綱引き競技大会をホークスペースボールパーク筑後で行ったが、子どもたちも大喜びで楽しそうに走り回っていた。現在筑後市では、スポーツを振興しようということで、「スポーツ推進計画」を策定中であり、スポーツを通して健康で元気なまちづくりをより一層目指していかねばならないと感じているところである。

本日も前回同様「教育のまち・ちっご」を実現するための具体策についていろいろ検討していきたいと考えているので、よろしく願います。

### 橋本部長

続いて、前回の会議の中で検討の指示を頂いていた件について検討結果等を報告する。

### 黒田係長

(資料の説明)

前は8月8日に第1回目を開催し、その中で議題としては教育大綱の基本方針1,2、夏休み短縮により増加した事業時間数の有効活用策について、中学校における武道の在り方について、以上4点を進めた。決定事項については、次第の裏に記載しているので読み取っていただきたい。検討事項は3点あり、1点目は基本方針1に関し、偉人伝を小冊子にまとめること。2点目は基本方針1に関し、筑後音頭を市内小学校に広められないか。3点目として中学校における武道の在り方に関し、剣道を取り入れる場合の道具や指導者について検討すること。以上3点が検討事項としてあがっていた。結果については、各担当課から報告をお願いします。

### 森田課長

基本方針1の筑後市の偉人伝を冊子にまとめることを社会教育課で検討することと宿題をいただいていた。それについては29年度の予算で考えており、教育大綱くらいの大きさの冊子を1000部作製する予定である。大体5人程度を取り上げて作っていかうと考えている。内容については教育委員会、事務局側で決めていきたいと思っているが、小中学校各クラスそれぞれ5部ずつ程度、その他関係機関等にも置き閲覧していただくような方向で検討をしている状

況である。

坂本課長

筑後音頭について報告をする。8月20日に校長会があり、総合教育会議の内容を報告した。その際、運動会や体育会の中に取り入れることができないかお願いをしている。その時点で春に運動会が終わっている学校もあり、秋の時点で5つの学校が運動会を実施していなかったが、プログラムの変更の問題もあり、結果としては下妻小学校で筑後音頭を地域の方と踊ったという実績である。

武道関係の費用については、学校に剣道を実施するかの考え方も併せて尋ねた。筑後中学校では、体育教員の中に剣道を専門としている先生がおり、取り組んでもよいという回答があった。その中でも型を中心にやるので、道具としては木刀が40本あれば実施できるのではないかと回答だった。木刀40本を揃えとなると、1本2000円程度と聞いているので、9万弱の費用が掛かってくる。それが最小の費用で出来る内容ではないかと考えている。最終的に全部揃えようと思うと200万を超えるような金額になる。指導者に関しては、基本は体育の先生がする。ただ専門家に指導の補助をしてもらうことはでき、そのための制度「武道等指導充実資質向上支援事業」が県にあり、柔道と剣道それぞれの連盟とスポーツ省が委託契約を結び、全国的に実施するという内容である。指導補助をお願いする場合は県を通じて申請をする。登録した人に来てもらい、協力を仰ぎながら剣道の授業を実施することは可能である。

橋本部長

今の報告について、ご意見ご質問はないか。

中村市長

偉人伝に関して5人程度としていたが、誰を予定しているのか。

森田課長

先程申した通り、内容を詰めているわけではないが、眞木和泉守は間違いなく入ってくるだろう。その他については、どういった人をあげた方がよいか委員会や事務局と協議しながら決めていければと考えている。

中村市長

これは小学生向けか。

森田課長

小学生、中学生に配布をしようと考えている。フルカラーで一人あたり4ページ程を使ってできればと考えており、業者に見積もりを出してもらっている。十数万円程度で出来るだろうということで、準備を進めているところである。

中村市長

剣道の関係であるが、事業の正式名称をもう一度お願いする。

坂本課長

武道等指導充実資質向上支援である。

中村市長

これは国が経費を出して、しているのか。

坂本課長

こちらの負担は旅費等の負担がある。それ以外はない。

高木次長

謝礼金は国から出すということか。

坂本課長

恐らくそういうことだろう。

中村市長

本格的な剣道家ということか。

坂本課長

そうである。

橋本部長

実態としては、地元の剣道連盟に要請があるのか。

坂本課長

そうである。全国飛び回って教えるわけではないので、福岡県なら福岡県の剣道連盟から筑後市に話があるのかもしれないが、それぞれの地域にいる登録をした人の中から個別に派遣がされるのではないかとと思われる。

久保委員

お願いする場合の経緯で県まで通さないといけないのか。

坂本課長

福岡県の剣道連盟の中にコーディネーターがいると聞いている。

久保委員

今の筑後市の中にも何人か登録をしている人がいる。お願いする場合、県経由の経路が複雑だなと感じる。

坂本課長

制度上ではそのようになっていると理解していただきたい。

久保委員

もし実施する場合には、もっと簡略的にできないのか。

中村教育長

単独で市で実施する場合にはそれでいいと思うが、国の支援事業にのせて市として経費を削減してやろうとする場合には、そのルートにのせなければならない。もう一つ、指導者の資質向上という点で、中学生に指導する場合の資質を上げるために研修会等をやって中学で指導する内容をある程度理解した登録している人が入ってもらうための事業である。

久保委員

筑後中学校の話が出たが、筑後中学校は専門家がいるので外部指導者はいらぬとのことであったが、他の中学校の意向はどうなっているのか。

坂本課長

他の中学校の意向は、特に剣道を希望しているということはない。確認はしているが、そういう回答である。

久保委員

現時点では、剣道連盟からの派遣は必要ないということか。

坂本課長

筑後中学校を考えればそうなる。

橋本部長

他はいかがか。

中村市長

他の中学校は剣道を教える先生がいないから、柔道をしているのか。柔道を教えられる人はいるのか。

中村教育長

筑後市の場合には経費削減のために、剣道よりも柔道の方が安いので、柔道を導入したのが元々である。その流れで今柔道をやっているので、2つの中学校については新たに剣道をするエネルギーよりも今まで培ったノウハウの中で柔道をやった方がよいという判断である。筑後中学校については専門家がいるので、新たに剣道をするならば可能という回答である。しかも専門家であるので木刀1本でよいということである。素人であれば、とてもじゃないが木刀1本ではできない。その兼ね合いもあり、他の中学校からは希望が出てこなかったということである。

石橋委員

指導者が他の学校に異動した場合、その学校でも剣道をしようと思えばできるのか。

中村教育長

そうである。そうやって広がっていく可能性もあるし、その学校に他の体育教員が来て、学ぶことによって、剣道の型の指導ができる教員が増えていくことも考えられる。そういうことも校長会でも話をしている。

すべて一度に始めることができれば効果的だろうが、1つでもやり始めることによって、底辺の広がりが出てくるのではないかと考える。

久保委員

その逆もあり得るのではないか。

中村教育長

その先生が転勤することによってその学校ではしなくなることはあり得る。

中村市長

なぜ剣道かと言っているのは、小学校では少年剣道クラブがあり、大会が毎年あっているが、中学校に入ると市内ではなかなか出来ないという声を聞く。

今、剣道部があるのはどこの中学校か。

久保委員

市内すべての中学校で剣道部はある。

中村教育長

今の市長の話はどちらかというと部活の話である。今話題に挙がっている武道の授業というのは、年間に10時間くらいである。小学校で剣道を学んだ子が満足するような剣道の授業になるとは思っていない。水泳の時間でも年間10時間、剣道も同じくらいである。中学校3年間で30時間程度、ダンス等との兼ね合いもあるので少なければ20時間程度である。

中村市長

正課の授業の武道のところは、柔道でよいということで、剣道が好きな子どもたちは剣道部に入って部活動ですればいいということか。

中村教育長

今までそういう流れで来ていた。今回総合教育会議でそういう要請があったので、校長会で投げかけたところ、1校ではやってもいいということである。剣道と柔道と考えた場合は、正課の授業で指導などをやる場合は剣道の方が安全である。柔道の事故の方が大きい。柔道も受け身の練習などしかしていない。筑後中学校からは剣道の方が安全だからという意見も来ている。ただ、道具をある程度そろえなければ出来ないだろう。木刀だけでも指導が筑後中で出来て、体育の教員が3~4人いるのでその人たちがどうなるかによって、やり方のノウハウの広がり方や正課の体育の授業の広がりも変わってくるだろう。

中村市長

筑後中で行うとしても、2000円の木刀を40本購入しなければならないのか。

坂本課長

9万弱なので可能だと思う。

久保委員

木刀ケースも買っておかなければ、放っておくと生徒が持って行ってしまう。管理しておかねばならない。

坂本課長

それでも予算的には可能だと思う。

橋本部長

他にないか。それでは議事に移りたいと思う。市長に進行をお願いします。

中村市長

私の方で進行役を務めさせていただく。教育大綱基本方針の3, 4, 5について議論していただくようにしているので、基本方針3の「社会を生きぬく力を育む学校教育の推進」について議論していただきたい。これについてご意見等がある方はお願いしたい。

中村教育長

基本的に学校教育の推進に関しては、振興計画を作っている。ここで協議していただくのは、これの補強という観点で提言いただくとありがたいので、よろしくお願いします。

中村市長

そういう観点からご発言いただきたいが、何かご意見等あるか。

吉田委員

英語教育について今回取り上げている。なぜならば、グローバル化が急速に発展しているからである。この資料は英語教育の必要性について書いている。2020年に導入される新しい英語教育に適応するために、現在昼休みなどに行われている校内放送を利用し、日本語と英語両方で放送する方法で、耳から英語に慣れ親しんでもらいたいと考えている。

中村市長

吉田委員からそういう発言があったが、何かあるか。

坂本課長

流れだけ説明すると、国では2020年度から学習指導要領を改定し、現在は5, 6年生に対して外国語活動を実施しているが、それが3年生に前倒しされる。5年生からは教科として英語が導入されるという内容で今後改正される予定である。併せて授業時数が年間35時間、3年生以上6年生までは、英語活動または英語科の授業に伴い、時数が増える。何かを削って英語を増



やすのではなく、時数自体が増えるという内容の学習指導要領の改定が予定されている状況である。それ以外でもこのように膨らませることができるというご提案だと思うので、大いに参考にさせていただき、活かしていけるのではないかと考える。

中村市長

今提案のあった、校内放送を英語と日本語両方で流すという件は可能か。

坂本課長

もちろん可能だと思う。

久保委員

子どもたちがいろんな連絡を放送すると思うが、先生たちではなく子どもたちがやるのか。子どもたちがマイクを持って自分たちで英語をしゃべるということか。

吉田委員

そうである。英語で話すのではなく、マニュアルが各小学校にあると思うので、それを英語に訳してもらい、子どもに読ませて、子どもが耳から聞いて、耳を慣らして、英語に親しんでもらいたいと思って、こういう提案をした。

例えば、「掃除の時間になりました」と言ったら「It is time for cleaning」と続ける。英語訳は学校の先生にしてもらう。

中村市長

他の方、ご意見はないか。

斎藤委員

耳から慣れるというのは私も賛成であるし、小学校だと1年生からいるので、そういう放送だけでなく、ちょっとした音楽が流れるときも、1年生から親しめる英語の音楽を流してみたりなどして、耳慣れをしていくことが大切だと思う。

中村市長

では、そういう方向で検討すること。この場で決めなければならないのか。

中村教育長

決まったからと言って必ず実行するわけではないが、決まったことを重く受け止めるというのは原理原則である。その方向性ということで決定していただいて、後はまた教育委員会として手法も含めて検討する。ただ、今の件についてはお金もかからないと思うし、実現は可能かなと思う。時間的にも教科の時間を潰すわけでもないのだから、通常やっている中に英語を入れていくという手法なので、アイデアとして面白いし、取り組んでもいいかなと。先程の偉人伝ではないが、中学校の英語の先生の力を借りるなど各学校にマニュアルを作るとかそういったことはできるのかなと思う。本物のALTとかもいるので、テープを作ってもいいのではないかと。そういうのを流して耳慣れさせる。

中村市長

いい提案をいただいたので、具体的にどのような手法があるのか事務局の方で前向きに検討すること。他にご意見等ないか。

久保委員

子どもたちが学校で取り組んでいる大縄跳び大会があつたりするが、大会などに出場するかというときに旅費等のお金がないので出場できない現状がある。一生懸命やっている子ども達に、披露する場を提供できるような予算組みをお願いしたい。

中村市長

ご意見に対して何かないか。

坂本課長

どういふものをやるかということだろうが、スポコン広場というふふな事業があつており、全国大会もあつている。内容は「みんなで縄跳び」や「みんなでジグザグ走」、「みんなでドッジボールラリー」など県大会を勝ち抜けて全国大会までである。そういうものに対して出場する時にバス代の手当てをするのかということについては、私どもの方で検討しないといけなふと思ふ。ただ、今はそういうのがないので、理解いただければと思ふ。

中村教育長

ないとはどういふことか。

坂本課長

バス代の予算がないということである。そういう予算を検討していく必要があると思つている。

久保委員

将来的な予算組みの検討はできるのか。

坂本課長

予算を要求する立場であるので、予算が取れるかということに関しては直接お答えできない。

中村市長

学校教育の中で、例えばドッジボールをやっているグループなどあるが、そういう人も試合に行つたりしている。そういうところも遠征に行つたりするときのバス代との話にもなつてくるので、そのあたりとの兼ね合ひもある。

中村教育長

スポコン広場は県が主催している。例えば、長縄飛びなどあるが、3分間に何回飛んだかを競走するものである。以前は学校で測つて、ネットで登録し、南筑後管内で5年生の中ではこの学校がトップで県大会出場となつていたが、去年からブロック別大会に変わつて、南筑

後ブロックで大会が開かれるようになり、そこで優勝したチームが県大会に行ける。県大会で優勝したチームが全国大会に出場する。学校教育の中で鍛えてやっていくようなスポコン広場というものがあって、システムが変わったために、ブロック大会に行く予算がない。練習はするが、出場はしない。以前はネットで登録だったので、古島小学校などは優勝したこともある。

今年、市のバスを使えないかと依頼が来たが、規定でバスは市内だけとなっているためお断りした。

久保委員

学校の先生が立ち会って指導するということか。外部が立ち会うものではないということか。

中村教育長

そうである。

中村市長

それは県で主催するのか。

中村教育長

そうである。

中村市長

例えば、筑後市代表を決めるのは市内で大会をすればよいのか。

中村教育長

そうである。

中村市長

それをやって、筑後市の代表としてブロック大会なり、県大会なりに行くのならば、支援していいと思うが。

中村教育長

県大会の費用は県が主催なので県が出す。その学校にバスが派遣されてくる。

中村市長

今やっている種目は何か。

中村教育長

縄跳びと馬跳びとジグザグ走とドッジボールラリーである。ドッジボールラリーというのは、一列に並んで投げてキャッチミスをしないか。馬跳びは一列に並んで順番に飛んで、50mを何秒で行けるかというタイム競技である。

中学生もダンス甲子園があっている。これはコンテストで、審査があっている。

中村市長

スポコン広場出場支援事業か何かをおこして、要するに筑後市の代表となったら支援する  
とすれば、みんな頑張ってやるだろう。

中村教育長

各学校のデータを真摯に持ち寄って審査をするということで、大会を開くとなると日程の  
調整など難しいから、そのあたりの工夫の余地があると思うが、筑後市から1チーム出すとな  
れば、エネルギーにはなるのではないか。種目もたくさんあるので、どの種目が出るかも含  
めて。

中村市長

お金と言っても、バスを借りる予算くらいだろう。

中村教育長

学校の行事で一番の問題は移動手段である。

中村教育長

青少年科学館などからイベントの案内があっても、一番のネックは移動手段である。学校  
が一番困るのは、移動手段の予算である。いろんなイベントがあるので市内の学校に  
来てほしいと言われても、時間と移動手段が悩みである。

中村市長

どういう方法で出来るのか検討してもらいたい。  
次はいつこの総合教育会議は開催されるのか。

黒田係長

一応2月を予定している。

中村市長

学校で行くとき、貸し切りバスは5台も6台もいない。

中村教育長

1チーム1台あれば十分だし、学校規模によっては合体していい。ただ、1つの種目が出るの  
で、学校がいくつかに分散する可能性はある。

中村市長

スポーツ推進計画は今年中に作り上げて、来年度から実施するのだろう。それにスポコン  
のことを盛り込むことはできないのか。

森田課長

小さい事業については、計画の中に謳っていないので、大きい捉え方をすれば該当する部  
分も出てくる。

中村市長

予算は学校教育課で要求しなければならないが、スポーツ推進の一環として学校教育ではスポコン広場の支援をするとすれば言い訳は立つのではないか。今の提案は原課にて検討するように。

次に、基本方針4「生きがいを感じる生涯学習の推進」に関して、意見等がある方はお願いしたい。

吉田委員

子どもたちに、私たちの仕事や仕事の内容の話聞かせること、あと一つは市内には企業や商店がたくさんあるので、小学生は職場見学、中学生は職場体験をすることにより、子どもたちが学んだ成果を活かして、将来の夢につなげていけたらよいと思う。また、新しい夢が生まれるかもしれない。筑後市にどのような企業や商店があるかを知ることにもつながると思うので検討をお願いしたい。

中村市長

社会科見学の内容がわからなかったので学校教育課に資料を出してもらったが、今吉田委員が言うように、筑後市内にも立派な企業はあるし見学コース等も用意している所もあるので、まずは市内で勉強できる範囲は市内でもらうとよいという思いで話している。小学校の訪問先や中学校の体験先などいろいろあるのでやってもいいと思うが、それ以外にも広げる必要もあるかと思う。これに関していろいろな方のご意見をいただきたい。

久保委員

実際、就業体験やインターンシップに関しては、先日筑後中学校を訪問したときに、2年生の廊下に職場体験した場所と感想が貼ってあった。中学校は実際にもうできているのかなと感じる。3校とも出来ていなかったら、ぜひとも3校とも出来るように推薦してほしい。筑後中学校の子どもたちを見ると、足並みそろえて全中学校で実施できればと思う。

吉田委員

他の2校は実施しているのか。

中村教育長

羽中は実施している。北中は昨年度までは実施していたが今年はしていない。

久保委員

実施したという実績はあるのか。

中村教育長

元々実施していて、授業時数の関係で少し落としている。今年夏休み短縮ということで、羽中は夏休み中、筑後中が2学期に職場体験を実施している。

久保委員

筑後中は2年生だったが、学年は自由なのか。

#### 中村教育長

内容的に2年生である。3年生は高校のオープンスクールなどがあるので、そちらに時間を取っている。1年生で職業調べや高校を調べたりして、2年生で職場体験をして、3年生で身近な高校を調べている。

教育委員会として後押しできることは、訪問先の拡大である。今は学校側で調整をして実施している状況である。

#### 石橋委員

石橋工業では、インターンシップで夏休み中に八女工業生を受け入れている。何年前には中学生も受け入れたことがある。ただ普段の業務に学生が入るとなると危険を伴うこともあるので受け入れ側としては、考えるところではある。なので、高校生は1週間とか、中学生は3日間とかでできることをやって貰っている。その職場体験が終わった後、お礼の手紙が届く。そこにはきつかったけども、やりとげたことで親への感謝の気持ちが必ず書いてある。それを見ると受け入れてよかったなと思う。

#### 斎藤委員

親としても、うちの子が2年生で今年度参加させてもらったが、感謝する心や仕事の大変さを学んでくれたことだけでも全然違うと思うし、子どもにとってもいい糧になったと思う。企業側が引き受けて頂かないとできないことではあるが、子ども達にはこれから永く筑後に住んでもらいたいので、市内の企業を知って参加することでそういう風になっていけたらいいなと思う。

#### 吉田委員

私も斎藤委員の意見に賛成する。筑後市内を子どもたちによって活性化できると思うので可能なら筑後市内の企業や商店を選んでもらえるようにしてもらいたい。

#### 中村市長

どこに職場体験に行くかは学校で決めるのか。

#### 中村教育長

学校で調整して、受け入れ許可をもらったところに振り分けている。教育委員会として調整できることは、3つの中学校の職場体験の時期を一緒にするなどである。うちにも作業班のところに筑後中学校の子どもがきていたが、けがをしないよう何かを作るような工程を準備していた。その様子から3中学校がバラバラにこられると企業側も大変だろうと思う。

今は3中学校ともに時期がバラバラなので協議の必要があるのかなと思う。

#### 中村市長

中学校の場合は、職業体験をしようと思うが、小学生は社会科見学的な感じか。

#### 中村教育長

社会科見学という形にしなければならないと思う。小学校は、社会科の授業の一環として行っている。概念がもう少し広いところになると一般的な世の中を見る「社会見学」になる。

#### 齋藤委員

うちの会社には、小学2年生が「まち探検」ということで来ていた。うちは瓦屋だったので、瓦についての話をするとそれだけで興味を持ってくれて、後日の手紙では「瓦屋さんになりたい」など、自分の夢や将来について考える手だてにはなるのかなと思うので歩いていける範囲でも筑後市内の企業を見に行くことは大切なことだなと思う。

#### 中村教育長

小学校の低学年は生活科で歩いて「地域探検」や「校区探検」で歩ける範囲でやっている。4年生くらいになってバスで社会科見学に行っている状況である。

中学校に関しては、少しでも市内の体験先を広げるなど後押しできるように検討する。

#### 中村市長

できるだけ市内の企業に協力してもらえるように。

#### 石橋委員

小学生の低学年は地域の高齢の方のところに行き、中学年や高学年は校区の施設などに行くことで、お手伝いや交流を通して自分も人の役に立つことができたという喜びや、人の役に立つことは恥ずかしいことじゃないと感じる心を育むことに繋がると思う。

#### 齋藤委員

筑後小学校では、毎年発表会の際に老人ホームに行った時の報告がある。

#### 中村市長

福祉系の施設を訪れていることはこの資料からはあまりないように感じる。

#### 高木次長

この資料は、「校外学習」ということで調査したものであるもので、福祉体験など違う形で福祉施設に行っているのかもしれない。

#### 中村市長

基本方針4については、他に何か意見等はないか。それでは基本方針4については、中学生の職業体験や小学生の施設訪問などは今の意見を取り入れられるように検討をお願いする。

では、次に基本方針5「スポーツを通じた健康なまちづくりの推進」について、意見等がある方はお願いしたい。

#### 吉田委員

2つ提案させてもらう。1つ目としては、市内11校の小学生による「福岡ソフトバンクホークス観戦の日」を提案したい。夏休みの1日を利用して各小学校1学年が参加して行うのはどうか。

2つ目としてラジオ体操についての提案をする。筑後市ではラジオ体操が盛んに行われている。そこでラジオ体操の各動作を分解して、この動作では体のどの部分（筋肉・関節・腱など）に作用しているのかなどを解説する機会を設けるのはどうか。意味や作用を理解できて

いれば、もっと楽しくラジオ体操ができると思う。

中村市長

まず、「福岡ソフトバンクホークス観戦の日」について何か意見等はないか。

久保委員

私もその意見は是非推進して頂きたいと思う。地元で2軍とはいえ、プロ野球の本拠地があるということに、子どもの時に誇りと優越感を持たせてあげたい。

吉田委員

もし、これが実現可能であるならば、先程の話にあったように各小学校からの移動手段について市で可能であるならばバスなど使えるのかなと思うがいかがか。

中村市長

今の提案は、5年生や6年生など特定学年の時に行うのか。

吉田委員

そうである。

中村市長

これは夏休みを想定しているのか。

吉田委員

そうである。授業に差し支えがないようにと思い、できたら夏休みを考えている。

久保委員

夏休みの暑い日は熱中症など心配である。春と秋は小学校では運動会があるので、7,8月は時期的に心配である。

吉田委員

熱中症への懸念もあるが、授業への差し支えがないようにと考えて夏休みを想定している。

中村市長

優待券は出るのか。

江崎室長

来年は小中学生に招待券を配布しようと協議しているところである。また熱中症という話もあったが、来年度はナイターを増やすことを計画しているので、夏休み期間中はナイターが増えると予想される。



#### 吉田委員

ナイターになるとよりバスの必要性が増してくる。

#### 江崎室長

今年は2軍戦といえども、約12万7000人に来場していただき、土日となると9割近い集客率があったので、土日に全小学生の1学年約500人の席の確保は、難しい状況である。しかし、平日に関しては、日によって席の確保は可能かなと考えている。市と球団で結んでいる協定の中で話ができるのかなと思う。球団側も夏休みの平日など小学校と連携ができたらという意向は持っているようなので、その辺でマッチングができればと思う。

#### 橋本部長

本日午前中に、活用推進委員会で招待券の話がでたが、11小学校の1学年が一同に会する方が理想的ではあるが、厳しいのではないかと意見があり、その方法については考える必要があるのかなと思った。

ただ、来年は「優待」ではなく「招待」することにしている。その方法に関しても、私どもも含めて検討する必要があると考えている。

#### 中村市長

雨が降ったりするので、なかなかいつするというのは難しいと思う。

#### 久保委員

要望についていろいろ出しているが、中身については担当の方で決めていただければと思う。

#### 中村市長

要するに市内の小学校の何年生かで応援に行こうということなので、どうしたら実現できるのか、難しいところはあると思うが考えていってほしい。

2つ目のラジオ体操について何かあるか。

今学校でもラジオ体操を推進してもらっていると思うが、学校でのラジオ体操の指導はどうなっているのか。

#### 中村教育長

講習会の効果は低いように思う。ただ、今指導者向けの講習会と市民向けの講習会をやっているが、中身は非常に価値が高いと思うし、ここに書いてあるようなことを説明している。参加した人の意識をどう学校の中に持ち帰るかが大事である。来年の夏の講習会には校長先生に出てもらおうと考えている。校長先生が意識しないと、受講した人が披露する場がないのではないかなと思う。今年子ども会でやったドッジボール大会の際の準備運動でラジオ体操をしたが、講習の内容をきちんと伝えられている学校とそうでない学校の差がみられたため、今年の講習会の時にそれは伝えた。実態として変わっていないため、まずは来年度校長先生の講習会参加を行いたいと考えている。

#### 中村市長

それはなるべく早い方がよいので、2月18日の市民向けの講習会に校長先生と教頭先生くら

いには来てもらいたい。

中村教育長

要請はしてみる。

中村市長

ラジオ体操動作の意味や体のどの部分にいいかなどを子どもたちに教えてほしいということなら、講習会に先生方が来た時に、配るような冊子か何かなかったか。

森田課長

簡単なチラシなどは講習会の時に配っている。

中村教育長

講習会の様子をビデオに撮ったりはできないのか。

森田課長

できない。

中村教育長

市の職員も何度も出ているが、意識しないと結局何も変わらない。

中村市長

私がいつも行っている、水辺公園のラジオ体操に小学校の5年生くらいが来ていたが、NHKのモデルのようにきれいにしていた。どこで覚えたのかと尋ねたところ、テレビでお姉さんたちがしているのを見て覚えたということだった。

斎藤委員

上手な人の動きを見ないことにはできない。

中村教育長

私たちが習った頃とだいぶ変わってきている。講習会に出てみると何か違うなど感じる。いろいろ研究して変わってきているなど。自分流をしている。新しいことを0から覚えるわけではないので。

久保委員

ラジオ体操は第1なのか第2なのか。

坂本課長

第1と第2である。

中村市長

他にスポーツを通じた健康なまちづくりについて何かないか。

#### 久保委員

学校と関わりがあるが、非常にスポーツ少年団が盛んであるが、中学校になると盛り上がっていないというか、全国大会で活躍するほどの選手がいない。外部指導者によって全国大会に行っている子どもたちもいるが、学校の中で育った子どもたちが全国大会に行くようなシステムができないかと思う。筑後市に中学校が3つしかないので、3つの中学校でバラバラに部活動をするよりもどこか絞って、例えば筑後中学校は剣道で、他の羽犬塚中学校や筑後北中学校校区の子どもたちがそこに行って夕方から一緒に稽古をすとか、野球は野球に特化すとか、そのような形で子どもたちを育てていけば少しはスペシャリストが生まれてくるのではないかという気がする。問題点が2つあり、1つは距離が遠いので子どもたちの安全面の確保、2つ目は指導する先生がいるのかという人事の問題があるので、もし前向きに検討ができるのであれば、そこまで検討していただければと思う。

#### 中村市長

久保委員の提案について、いかがか。

#### 坂本課長

なかなかハードルが高いなという印象である。

#### 久保委員

すぐにやるということではなく、将来に向かって少しずつスポーツを高めていくまちづくりのためにはどうかと思っただけである。

#### 坂本課長

すぐにコメントができることではない。

#### 中村教育長

スポーツの合同チームなど、ハードルが高い。学校のニーズが部活動と生徒指導がリンクしているので、学校の教員としては非常に難しいところがあるが、効率などの面では1つの考え方かなと思う。ただ水泳はスイミングスクール、空手は塾でやっているの、出来るのは剣道や柔道のような格技、あとは陸上も可能性がある。球技は外部でチームができており、選手の奪い合いとなり難しいのではないかと思う。学校と十分協議しないとイケない。

#### 斎藤委員

確かに、小学校まで1つのスポーツを一生懸命してきたが、中学校で指導者がそこまで上手ではないため、市外の中学校に移ったという話も聞いたので、そうなる寂しいなと思う。

#### 久保委員

私立の中学校などに行く子は別だが、同じ公立中学校で他市の公立中学校に行くということは寂しいので、なぜこちらで育てられないのかなと思う。指導者の問題であって、優秀な指導者が少ないのかなと感じる。そういう優秀な指導者を人事でどうにかできないのかと思う。

### 中村教育長

難しい。そのあたりの話になるともう駄目である。教科でしか人は取れないので、部活のために人事異動が出来るのであれば別問題であるが。そこは考え方であって、例えばこちらにバレーボール部があるにも関わらず他市町村にまで行ってバレーボールをするというのは反則である。教育委員会としてはそこまで対応するという事は考えていない。それは別次元の話であって、今言われているのは人数が少なくてチームが組めなくて出られないなど、そういったことであれば考えなければならないが、部活のために他市の学校に行くというのはいどこを目指すかという個人の選択なので、次元が違うなど感じる。

### 中村市長

やはりよその公立中学校に行く子もいるのか。

### 中村教育長

それはある。バレーボールなどは大木中に行ったりしている。そこは男子も女子もバレーボールが強い。大川の子も大木中に行っている。そういった実態があって、このあたりでは大木中、久留米では筑邦西、荒木などの地域では親の住民票を移して通っている。

### 斎藤委員

大木中の指導者は外部ではなく、教員なのか。

### 中村教育長

教員である。たまたま体育でバレーボールの専門家がいる、筑後中にたまたま体育で剣道の専門家がいるという話である。黒木中も体育で剣道の専門家がいって、いろんなところからきている。黒木の子は1人か2人しかいないのではないかと。

市内の子を集めてということに関しては、市内の学校と協議することは可能かと思うが、市外に逃げるのを止めるということとは次元が違う。

### 久保委員

久留米では久留米商業と南筑の定期戦を市営球場でやっており、5月の久留米の風物詩として市民から愛されている。筑後市内には八女高と八女工の2つしかないが、新たに去年から定期戦を始めた。その定期戦を盛り上げるために取材してやれば市として盛り上がるのではないかと思う。

### 中村市長

去年第一回があって、次回はぜひタマスタでという話になっていたが、時期的にやはりシーズン中はなかなか空かない。それだからといって、シーズンが終わってからだと高校の方が新しいメンバーになっていたりする。OB戦なら別だが、これは現役か。

### 久保委員

そうである。OB戦というのも面白いと思う。

中村市長

新チームの定期戦というのは。

久保委員

高野連の規定があって、12月から何月かまでは練習試合をしてはいけないとかいうのがある。

中村市長

やはりシーズン中のタマスタは厳しいのか。

江崎室長

ちょっと厳しい。球場自体を借りるということが難しい。

久保委員

そうすると11月くらいか。

江崎室長

今くらいが一番借りやすい。あとは借り賃の問題もある。

中村教育長

いくらくらいかかるのか。

江崎室長

全くの民間であれば、1日で約100万円と聞いている。ドームとさほど変わらない値段である。実際にそれで本当に借りている人がいるのかどうかは分からない。

久保委員

久留米は市営球場なので、高校も市立なので意外と安く使える。

八女工業でやると仮設スタンドを持っているので応援席など作れるが、八女高は持っていない。どうせやるなら生徒全員呼んで、甲子園の気分を味わわせたい。

斎藤委員

少年野球の子たちもそういうのを見れば、市内の高校に行きたいという子も増えるのではないか。憧れの場になるのであれば。実際ソフトバンクがこちらに来て、筑後野球少年団の数をみると増えている。

中村市長

この話は少し検討の時間をもらいたい。学校との協議もあるので。

江崎室長

球場は2つあるが、今年はメイン球場しか稼働していない。来年からはサブ球場も稼働する。ただ客席がない。選手の練習場所を確保するという点では、今年よりも融通は利きやすいのではないかと思う。ちょっと検討させてほしい。

中村市長

他に何かあるか。

それでは基本方針3, 4, 5についてそれぞれ意見・新しいアイデアなどいただいたので、事務局の方で検討していただきたいと思う。できれば29年度に予算要求を提出していただきたいと思う。

これで終わりとするが事務局から連絡事項があればお願いします。

橋本部長

前回同様、今回の議事録についてはこの後速やかに作成し、皆様に確認いただいた後、市のホームページにて公開する。

なお、次回の開催については2月頃を予定している。日程調整等をさせていただいた上で案内する。これにて第2回筑後市総合教育会議を閉会する。

以上

以上の筑後市総合教育会議録について、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するためにここに署名する。

平成 28年 12月 28日

市長

中村 征



教育長

中村 英司



委員

久保 大



委員

石橋 厚子



委員

斎藤 白石



委員

吉田 和博

